

第15回 東海外来小児科学研究会のお知らせ

謹啓 時下、先生におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、この度下記の要領にて第15回東海外来小児科学研究会を開催する運びとなりました。
ご多忙中とは存じますが万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようご案内申し上げます。

今回はワークショップ形式での開催になります。当日の議論が充実したものになるように、なるべく事前登録をお願い致します。各ワークショップの抄録をお読み頂き、ご希望のワークショップリーダーまで別紙申し込み用紙でFAXするか、電子メールにて参加申し込みをしてください。

事前登録していただいた参加予定者にはワークショップリーダーからアンケートなどの事前打ち合わせがありますので、ご協力をお願い致します。 謹白

日 時：2008年12月7日（日） 12：30 ～ 17：00

会 場：愛知県医師会館(中日ビル南100メートル) 地下1階講堂

名古屋市中区栄4-14-28 TEL(052)241-4136

プログラム

12：30～ 受付開始（地下1階 講堂前）

13：00～15：30 ワークショップ（各ワークショップ会場：終了後、地下講堂に移動）

15：45～16：00 製品説明（地下1階講堂）

ロイコトリエン受容体拮抗薬『シングレア』について 万有製薬株式会社

16：00～ 会長挨拶（地下1階講堂）

東海外来小児科学研究会会長 志水こどもクリニック 志水 哲也 先生

16：10～17：00 各ワークショップ報告・総会（地下1階講堂）

司会 落合小児科 落合 仁 先生

【ワークショップ抄録】

ワークショップ1 「鼓膜の見方、耳垢の取り方を一緒に学びませんか」

リーダー 渡辺正博（三重）・矢嶋茂裕（岐阜）・中村陽一（愛知）

中耳炎は日常的に良く遭遇する疾患で、乳幼児期に誰もが経験すると言われています。先般の日本外来小児科学会WSでも中耳炎に関して臨床研究を行おうというように、ハイレベルな小児科医も多く見えます。しかし、まだ多くの小児科医は耳垢処置を含め鼓膜所見の取り方には自信がないと思います。そこで、小児科開業医を対象に中耳炎に対する意識と実際にどこまで診療を行っているかをアンケート調査したいと思います。そしてワークショップではその結果についての検討と耳垢処置、鼓膜所見の取り方をみんなで学びます。これから鼓膜をみようと考えている方もしくは耳垢処置などで困っている方が対象です。また、少しコツがわかったのでみんなに教えてあげようと思っている方も大歓迎です。

耳科診療には道具が大事です。今回は企業にも協力をいただき、ウェルチアリン（マクロビュー、デジタルマクロビュー、ルミビューなど）、オリンパス（電子内視鏡）、ナガシマ医科（ATOM'S 耳鏡、処置用器具など）を予定しており、実際に使ってみる時間を多く取ります。

ワークショップ2 「医療過誤事例の検討」

～法律家もお招きして、ミニWS形式でしましょう～

リーダー 梅本正和（三重）、中島俊彦（岐阜）、千原 克（愛知）

ワークショップは、理解を進化させるための方法です。今回は、法律家を必ず1人含め、5—8名ずつのWSを行ないます。目的は、判例を題材に、いろいろな意見をもった医師・法律家の視点を共有化し、医療水準という立場から「合意形成」をしたいと思っています。ファシリテーター（進行役）をひとり決め、まとめ役はグループ全体が行ないます。判例は、以下の4つですが、あらかじめアンケートをとって、上位2症例にします。①6ヶ月児：ベッドから転落後、硬膜外血腫による後遺症を残したが、転送した開業医が注意義務違反とされた事例 ②5歳：気管支炎、脱水の診断で入院し、18時間後に心筋炎で死亡し、最高裁係争中の事例 ③4歳：伝染性単核症で入院中、病院食としてでたバナナを誤飲して窒息死し、医師と看護師が注意義務違反とされた事例 ④2歳：喘息でネオフィリンを外来点滴後、けいれんし重度の後遺症をきたしたが、医師に過失責任が認められた事例（テオフィリン関連脳症）

ワークショップ3 「あなたは学校医活動をどのようにしていますか？」

—もっと学校へ行ってみませんか—

リーダー 蜂谷 明子（岐阜）

学校保健法中『学校医の在り方』では、「学校医には学校保健法に則った職務を遂行する義務があり、そのため必須の基礎知識の習得が求められる」とあります。昭和33年に制定された学校保健法から50年が経ちました。

子どもの学校生活を取り巻く環境は変化し、学校保健法、学校教育法共に改定されようとしており、改定では子どもの「安全・安心」に関して強く謳われています。今後、私達は学校医としてどのように取り組んで行くか、小児科医としてどのように子ども達を支えて行くか考えて行きたいと思えます。

たくさんの学校医活動の中から今回は3つのテーマに絞って考えて行こうと思えます。

①健康診断について ②健康教育・健康相談について ③学校保健委員会（学校安全委員会）について

昨年大阪府で健診時に脊椎側弯症を見逃したとして学校医も提訴された事件がありました。発達障害児もひとりひとり個性が違いそれぞれの対応について相談される事も増えてきました。

『心臓疾患、腎臓疾患学校生活管理票』に続き、本年度（財）日本学校保健会から文科省学校健康教育課監修のもと、『アレルギー疾患学校生活管理票』が示されました。続いて「**●**エピペンの教職員による接種は医師法違反にならない」という示唆が出されました。

このような現状の中、私達はどのような認識を持ち、活動して行くか一緒に考えて行きたいと思えます。

東海外来小児科学研究会世話人

愛知県 志水哲也（会長） 杉浦壽康 北條泰男 大西正純

岐阜県 大庭敏夫 田口徹彦 田中 浩 矢嶋茂裕

三重県（担当県） 熱田裕 庵原俊昭 落合 仁 稲持英樹（事務局） 梅本正和 種田寛

※ 日本小児科学専門医制度研修集会として5単位が取得できます。

※ 尚、会費と致しまして2,000円を受け付けで申し受けますので、ご了承ください。

共催 東海外来小児科学研究会
万有製薬株式会社